

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で 晩秋から冬季に発見されたツノメガニの幼体（甲殻類，スナガニ科）

久保田 信*

Shin KUBOTA : Appearance of juveniles of *Ocypode ceratophthalma* (PALLAS) (Crustacea : Ocypodidae)
in late autumn to winter on “Kitahama”-beach at the Seto Marine Biological Laboratory,
Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”の全体では、通年は7-10月の夏季から秋季にかけて直径約3 cm までの種々のサイズのスナガニ属の巣穴が普通に見られる（久保田, 2006, 2012a; 渡部ほか, 2012）。直線距離で400 m ほどの“北浜”では、その巣穴の数は年変動があり、最多で669 個（2012 年）、最小で33 個（2004 年）の記録がある（久保田, 2006, 2012a）。今回、年を越して1 月に入った真冬にもかかわらず巣穴が見られたと同時に、生体のスナガニ類も発見された。そこで、当該区域で晩秋から冬季にこれまで発見されたスナガニ類の稀少記録も併せて報告する。



図1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で2016年1月14日に発見されたツノメガニの生きた雄幼体（甲幅24 mm）

Fig. 1. Living male juvenile of *Ocypode ceratophthalma* (PALLAS) found on “Kitahama”-beach at the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan on January 14, 2016 (carapace width 24 mm).

結果と考察

過去約10年間余りの期間中、晩秋から冬季に“北浜”では、次のように少なくとも2個体のツノメガニの幼体および2個体のスナガニ類が発見された：1雌のツノメガニの新鮮な死体（発見年月日は2004年10月15日）と1雄のツノメガニの生体（2013年1月9日）、およびスナガニ類2個体の新鮮な死体（2000年の11月3日と



図2 和歌山県白浜町京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で2016年1月15日に発見されたスナガニ属の巣穴。指の幅：c 22 mm.

Fig. 2. A burrow of *Ocypode* sp. found on “Kitahama”-beach at the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan on January, 15, 2016. Finger width: c 22 mm.

* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459,
Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan
e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

12月9日)。今回、2016年1月14日に、新たに1個体の雄幼体(甲幅24mm)が波打ち際で発見された(図1)。この個体は屋内で飼育したが、市販の人工餌2種類を食べた後、2日目に死亡した。

“北浜”ではスナガニ類の巣穴は2016年1月になって少数が存在した。その数は、1月15日に7個で、1月16日と17日にそれぞれわずか3個であった(図2)。それ以降も調査を継続したが、強風や荒波の日々が多いためもあってか、全く見当たらなかった。このように極めて少数だが、この事象は今迄に生じていない記録となった。これは、田辺湾周辺で他の動物(例えばミドリイガイ:久保田, 2007)でも見られるような地球温暖化の影響を示す一例となる。

現在の“北浜”に生息するスナガニ属のほとんどは、ツノメガニ *Ocypode ceratophthalma* (PALLAS) とナンヨウスナガニ *O. sinensis* DAI and YANG であるが(渡部ほか, 2012)、後者らしき個体が夏季に構内から発見されたことがある(久保田, 2012b)。ツノメガニは以前には奄美大島以南に分布する南方系種だったが(和田, 1995)、2000年頃に瀬戸内海東部や大阪湾から採集されている(渡部・伊藤, 2001)。また、相模湾でもツノメガニに加えてナンヨウスナガニが発見されている(渡部, 1976; 渡部ほか, 2012)。この様な状況の中、これまで晩秋から冬季に“北浜”で発見され、上記に挙げた少数個体(少なくとも計3個体)がツノメガニであることから、また今回のように通年とは異なって真冬まで生息が継続しても、巣穴の数はごく少数に減少することから、本種は越冬できずに冬季に全個体が死亡するのであろう。いわゆる熱帯魚(サンゴ礁魚類)でよく知られるこの無効分散は、紀伊半島沿岸のツノメガニについても淀ほか(2006)や渡部ほか(2012)の調査結果から既に指摘されている。

謝 辞

スナガニ類の同定をしてくださり、本原稿を読んで貴重なご意見を下さった奈良女子大学の和田恵次教授に深謝致します。

引用文献

- 久保田 信. 2006: 干潟でダンスするカニたち. *In* 宝の海から—白浜で出会った生き物たち—. pp. 124-125, 紀伊民報, 田辺市, 和歌山県.
- . 2007: 和歌山県田辺湾およびその周辺海域におけるムラサキイガイ個体群の激減とミドリイガイの増加. *南紀生物*, 49 (1), 81-82.
- . 2012a: 和歌山県白浜町の砂浜におけるスナガニ属(甲殻類, スナガニ科)の巣穴の密度. *日本生物地理学会会報*, 67, 277-280.
- . 2012b: 瀬戸臨海実験所“研究道路”に出現したスナガニ属の一種(スナガニ科). *京都大学瀬戸臨海実験所年報*, 25, 50-51.
- 和田恵次. 1995: ツノメガニ, *In* 原色検索日本海岸動物図鑑 II. p.413, pl.117, 保育社, 大阪.
- 渡部 孟. 1976: 相模湾産 *Ocypode* 族について. *Research on Crustacea*, (7), 170-177.
- 渡部哲也・伊藤 誠. 2001: ツノメガニの大阪湾および、瀬戸内海東部における出現記録. *南紀生物*, 43 (1), 43-44.
- . 淀 真理・木邑聡美・野元彰人・和田恵次. 2012: 近畿地方中南部沿岸域におけるスナガニ属4種の分布—2002年と2010年の比較. *地域自然史と保全*, 34 (1), 27-36.
- 淀 真理・渡部哲也・中西夕香・酒野光世・木邑聡美・野元彰人・和田恵次. 2006: 南方系種を含むスナガニ属3種の和歌山市における生息状況: 2000-2003年. *日本ベントス学会誌*, 61, 2-7.